

# にはお

中国語を学ぶ会

平成14年6月発行 第13号

連絡先 0463-33-3177

神山 FAX 32-5594

## 創立30周年記念号

中国語を学ぶ会も創立30周年を迎えることができました

当会の生い立ち

日中国交正常化三十周年を迎える今年には、私たちの「中国語を学ぶ会」も時を同じくして三十周年を迎えることになりました。

一九七二年(昭和四七年)九月、時の田中角栄首相(前田中(外相の父)が訪中し日中共同声明が発表され、戦争状態の終結・国交正常化が実現しました。

これによって中国に対する関心が一気に高まりました。この会を創立した先輩たちも中国との友好を一層深めようとしてこれを機に中国語を学び始めたものと思われまます。

それから休むこともなく延々と三十年間発展し続けてくる事が出来ましたのも先輩たちのご努力と皆さまのご協力のお蔭であると考えます。

### 周年行事

先日の総会の席上、なにか周年を記念する行事を行なうてはどうだろうかとの提案があり、実施する事になりました。具体的になにをするかについてはこれから皆さんのご

意向を踏まえて決めて行きたいと思しますのでどうか積極的ご意見を聞かせてください。

### 当会存亡の危機に?

物騒な表題をつけて申し訳ありませんが、本当の話なのです。当会の財政は皆さんからの会費を先生方の謝礼に充てることによつて成り立っています。しかし現在の会員数では収入で支出を賄いきれないのです。いままでは従来からの繰越金を食いつぶしながらなんとかしのいで来ましたが、いよいよ切羽つまってきて、このまま推移すると八月には先生への謝礼金が支払えなくなつてしまいます。総会ではその解決策として色々な意見が交わされました。①会費を値上げする ②現在の三つの教室を二つに統合する ③会費を据置いてひと月の学習日を三日に減らす ④会員を増やす などなどの意見がでました。近日中に会長・会計などからいづれかをお願いをすることになります。その節はご協力をお願いいたします。

### 新人歓迎餃子の会

五月十九日、総会に引き続

き当会恒例の新人歓迎会兼餃子を作る会が盛大に行なわれまし。李老師とご主人の張さん、以前教えて頂いた李老師、鳥沢さんの知り合いの李さん張さんなどのご指導で本場中国の餃子の味を堪能しました。えび・いんげん・大根などの素材を使った色々な味を食べ較べたり、知ってる限りの中国語を使つて会話を楽しんでんだり……餃子の皮作りでは形が丸くならず散々苦労したりと貴重な体験をしました。

特に李老師の張さんが作った餃子は形が美しく繊細でまるで芸術品のようでした。そうそう餃子を作るといふ中国語は「包饺子」といふそうです。字を見ると納得ですね。

今年入られた新人の皆さんも今仲良く熱心にピンインの学習を進めているそうです。一日も早く正しい発音を身につけて先輩たちに追いつき追い越してもらいたいと思います。発音はこれから学習をしていく上でとても大切で、いつまでもつきまとい続ける問題です。

もし時間のある方はほかの教室を覗いて見るのも面白いと思います。

2月10号(星期六)

到中国旅行，旅顺口是我一定要去的地方之一，今天我实现了这个梦想，感到十分高兴。

中国旅行で、旅順口は是非行きたいところの一つであった。今日その夢が実現できてとてもうれしい。

2月10晚壺蛙8:30分我们短期留学生8人从学校出发，乘坐中巴车去旅顺口。导游是日语很好，

年轻的男性。他的名字姓金。他用中国话和日本话给我们解释，十分好。

2月10日、朝8:30分に短期留学生の仲間8人と学校を出発して一路旅順口にマイクロバスを走らせた。ガイドさんは日本語の上手な若い男性で金という名前だ。中国語と日本語で説明してくれたので大変よかった。

在旅順口の観光地203高地、東鷄冠山、水師營參觀。那些地方都是日本历史上有名的。

旅順口観光では203高地、東鷄冠山、水師營を中心に見学した。いずれも日本の歴史上有名だ。

旅順の街道，对于外国人的规定很严格只能从车上看，不能下车，很遗憾。但是，从车上看到中国农村的风景，春联等等，深入了解了中国的传统。

旅順の街は外国人に対して規制がきびしく、バスの中からだけ見学でき、下車はできず残念だった。しかしバスの中から中国農村の風景やお正月飾りなどが見られ、中国の伝統がよくわかった。

今天的旅游感到很满足，中午饭吃了很多，在回来的路上大家都睡了。

今日の遊覧はとても満足で、お昼の食事を一杯食べて、帰りのバスの中ではみんな寝ていた。

この原稿はずいぶん前に額田さんから頂いていたのですが、そのほかの原稿が集まらないためにずーとあたためていました。額田さんごめんなさい。中国語の文章も、日本語訳も額田さんの労作です。

それにしても一人で留学するなんて、とっても尊敬しちゃいますね。

私も平成10年の7月に大連・旅順を訪ねたことがあります。日本人観光客を目当てに、乃木大将とロシアのステッセル将軍が会見をした水師營にその建物が再現されていました。庭にナツメの木は無かったように思います。ナツメの木と言っても若い方には多分その意味はわからないのではないのでしょうか。203高地は1904年の日露戦争で13万人の日本軍が150日余りの日時と5万9千人もの死傷者を出してこの高地の奪取作戦を展開したところなのです。当時は一草木もないはげ山で山頂から露軍の銃弾が容赦なく降り注がれたと言われていたのですが、現在では鬱蒼とした低木に覆われていました。山頂には小銃の薬きょうを模した大きな記念碑が当時の面影を残して建ってありました。 編者記

## 盖浇饭 (gài jiāo fàn)

城市を離れ、車で畑の中のデコボコ道を一時間も走ると、きまって集落にたどりつく。集落といっても、舗装が剥げ落ち土ぼこりのたつ街道筋の両側に赤茶けたレンガ造りの家並みが数十軒集まっているだけの街だ。

その通りにはディーゼルの卡车が黒煙を吹き上げながら走り、バタバタとけたたましい騒音を撒き散らしながら耕運機のような三輪車が通るかとおもうと、ロバに引かせた馬車が軽やかな蹄の音を響かせる。時には放し飼いの鶏や子豚までもが街中を闊歩しているのを見かけることがある。

暗く沈んだような色合いで、活力のかけらも感じられないこの街でも商いの営みだけは着実に息づいている。ほこりをかぶった店先に並べられた炭酸飲料の中身は多分熱湯に近いだろう。「補胎」(タイヤのパンク修理)とか「零件」(車のパーツ)などの看板に混じって「飯店」とか「飯館」などの看板がやけに目につく。飯店とはホテルのことだと習ったはずだが目を凝らしてもそれらしきものは見当たらない。勿論こんなさびれた所にホテルがあるわけがない。その看板の脇に、小さな桌子と椅子を二三脚並べただけの店先で、手持ちぶさたそうに外を眺めている小姐が一人、もちろん客はいない。そこはホテルに非ずしてトラックの運転手などを相手にする一膳めし屋なのである。

さて、表題の盖浇饭(盖饭ともいう)であるが、盖は上から覆いかぶせる、浇は(水などを)かける、というような意味を持っており、要するに猪肉や川魚などと一緒に野菜を炒めたものを汁ごとご飯の上にかけて一膳めしが盖浇饭なのだ。

“吃饭了吗?”が日常の挨拶言葉として使われていたということはお存じの通りだが、今でもわざわざ道端に出て立ち食い、あるいは和式廁所スタイルで「丼めし」を食べている老人を見かけることがある。貧困のため三度の食事も満足にとれなかった頃の名残で「俺は飯が食べられるんだぞ」と誇示しているようにも見えるがこの見方は間違いだろうか。この老人が食べているのがとりもなおさず「盖浇饭」なのである。

自慢じゃないが日本にだって「盖浇饭」はある。猪肉盖饭、母子盖饭、牛肉盖饭つまり日本語で言えばカツ丼・親子丼・牛丼などがその典型だ。それに天丼や鰻丼だってその仲間と言えるだろう。

火车の中でも中国の老百姓は「盖浇饭」を食べるらしい。食事どきになると飯票(食券)を売りにくる。やがて弁当を満載したワゴン車がやってきて飯票と交換にホカホカのご飯に炒めものをかけた弁当を配り始める。こうやって予約販売をすれば売れ残ったり足りなかったりしないから至極合理的だ。だいたい一人前10元以下の値段だそうだ。

我々が乗るのは軟座(グリーン車)がほとんどだから残念ながらこういった光景に出会うことはめったにない。だけど中国人と同じような環境で旅ができるようになればもっともっと楽しいだろうなと思ってしまふ。さて、鉢巻きをしめなおして努力学習、一人旅ができるように頑張るゾ!

## 四川省の秘境

### 九寨溝・黄龍を訪ねる

去年の四月「世界遺産と大自然」というコピーに魅せられて近ツリのアールに参加した。九寨溝は四川省の省都成都から北四百数十キロにある山岳地帯だ。

成都を出発した我々のバスは途中「都江堰」を見て今日の宿泊地「臥龍」へ向かう。都江堰は紀元前三世紀に建設された人工の堰で世界遺産になっている。

臥龍の山中にただ一軒のホテル「熊貓山荘」は、その名の通り山小屋風で設備は最低だ。翌朝、ホテルに隣接する裏山に登り野生に近い状態で飼育されているパンダを見てから「黄龍」へと三三二キロ八時間の旅に出発。バスはそそり立つ急峻な山あい岷江沿いに造られたデコボコの山道を登っていく。ところどころでチベット族の小さな集落が現れる。

彼らは平地が無いので山の急な斜面に段々畑を作り耕している。曲がりくねった山道はどんどん高度を上げやがて雪を頂いた高い山が見えてきた。岷山山脈の山々だ。いよいよ標高四千メートルの峠を越える。あたりは一面の雪だ。ここは富士山の山頂より高いのだ。黄龍のホテルは「華龍山荘」。飯店と言わないだけあって文字通りの設備。添乗員は我々に言い渡した。高山病を防ぐため普段の二、五倍の水分をとり、酒たばこを慎み、風

呂には入らず、大声を出さない、走らないこと。参った参った。部屋には空気枕のような大きな酸素袋が置いてあった。

翌朝は黄龍観光。ここには棚田のような階段状の小さな池が三四〇〇余りあって黄色やブルーの美しい水をたたえている筈だった。しかし登れども登れども池の底には雪があるだけ。ベストシーズンにはちよつと早すぎたようだ。しかし滑りやすい雪と氷の山道から眺めた真っ白な岷山山脈の高峰は美しかった。

午後から九寨溝へ向かって出発、四千米の峠を越え、山道を走ること四時間。ここでは五つ星のホテルに泊まる。

九寨溝はユネスコの自然遺産。中国広しと言えどもその美しさは他に類がないとも言われている。女神が天上の世界から落とした鏡が百八つに砕けて出来たと伝えられる百以上の湖沼が点在する。自然環境保護のため中は電気自動車(バス)で観光するのだ。エメラルドグリーンの水を湛えた湖、ヒマラヤ杉に囲まれた長さ七キロもある長海が四千メートル級の雪山を湖面に映したさまは一幅の名画さながらの絶景だ。それぞれ特徴を持った湖を次々と巡り歩く。これらの湖は太古の地殻変動と氷河の活動によって出来たそうだ。

湖畔には鮮やかな民族衣裳を着た少数民族の女たちが腕いっぱい衣装を掛けレンタル業を営んでいる。衣裳を借りて記念撮

影をする観光客が後を絶たない。

湖だけでなく各所にある滝も見事だ。水量がやや足りない季節ではあったが十分見応えがある。

自然遺産だけあって整備や管理も万全だし、この景観は一見に値する。皆さんも行って見てはいかがでしょう。 神山

## 雑感

総会の活動報告の中で昨年度「にいはお」は一度も発行されなかつたと言われ驚いた。皆さんからの原稿が集まらないので、ついさぼってしまいい昨年の一月号が最後になつていたので。

このままでは廃刊になつてしまふそうだと思つたので取り敢えず四ページだけで作つて見ました。そもそもこの「にいはお」は会員の皆さんの発表の場として利用してもらいたいと始めたことなので、皆さんの投稿がなければ成り立たないのです。中国語を使わなくても、中国に関係無い事でも結構ですから気楽に投稿してください。

新人の方はこの会に入った動機、今の状況、悩み、希望などなど、或いは私はこんな勉強方法をしているとか、旅行記なども大いに結構。匿名も可、短い文章でもかまいません。三か月に一度くらい発行したいので原稿は随時出して頂いて結構です。手渡し・Fax(番号は表題参照)郵送などでよろしくお願いいたします。 神山